



工事事故対策通信

袋井土木発注工事 事故発生件数 令和7年度	事故項目	工事関係者負傷者	第三者(物損)	第三者(負傷)	工事事故合計	令和7年12月現在
	件数	1件	3件	0件	4件	

Vol. 57 工事関係者の負傷事故が発生

Vol. 56 JR橋梁桁に接触する事故が発生

Vol. 55 水道管を破損する事故が発生

Vol. 54 市道橋高欄に接触する事故が頻発



問合せ先
袋井土木事務所 維持管理課
TEL : 0538-42-3217
Mail : fukudo-kanri@pref.shizuoka.lg.jp

袋井土木事務所





工事事故対策通信

～工事関係者の負傷事故が発生しました～

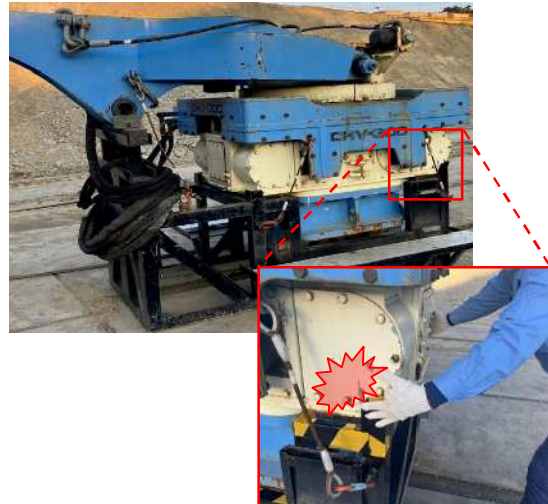
Vol. 57

令和7年12月発行

袋井土木発注工事 事故発生件数 令和7年度	事故項目	工事関係者負傷者	第三者(物損)	第三者(負傷)	工事事故合計	令和7年12月現在
	件数	1件	3件	0件	4件	

【事故概要】

CHV工法による鋼矢板打設作業において、専用の架台に載せられたCHVアタッチメントをトラックから下ろす際、補助作業者がCHVアタッチメントと架台の間に生じる5cm程度の隙間に手を入れて誘導作業を行ったため、指を挟んで負傷した。



【事故の原因】

- ①クレーンで吊り上げた際に、CHVアタッチメントと架台の間に隙間が生じ、また、その隙間に容易に手を入れられる状態であった。
- ②補助作業者が隙間に手を添えて作業を行った。
- ③作業従事者が、当該作業時に危険箇所が発生することを認識していなかった。

【事故の対策】

- ①クレーンで吊り上げた際に、隙間・ガタツキが生じないように、CHVアタッチメントと架台はチェーンブロックにより強固に連結する。
- ②CHVアタッチメントと架台の接触部にはトラテープにより注意喚起すると共に、CHVアタッチメントには標準的な手添え位置を明示する。さらに、作業手順書にも明記する。
- ③KY活動により作業時のリスクの再確認及び、作業員間での共有を行うと共に、改訂後の作業手順書の確認を行う。



**作業内に潜む危険を確認し、現場内で共有すること。
危険な箇所で作業を行っていないか確認しながら作業を行うこと。**



問合せ先
袋井土木事務所 企画検査課
TEL : 0538-42-3216
Mail : fukudo-
kikakukensa@pref.shizuoka.lg.jp

袋井土木事務所





工事事故対策通信

～物損事故が発生しました～

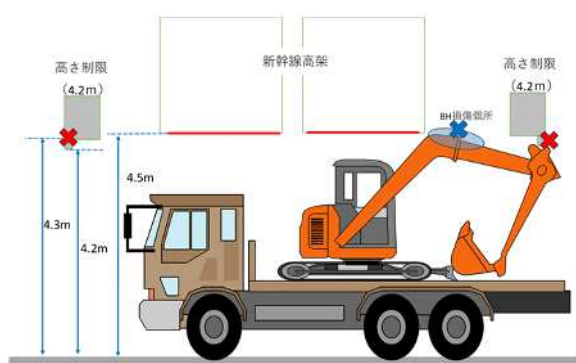
Vol. 56

令和7年12月発行

袋井土木発注工事 事故発生件数 令和7年度	事故項目	工事関係者負傷者	第三者(物損)	第三者(負傷)	工事事故合計	令和7年12月現在
	件数	0件	3件	0件	3件	

【事故概要】

バックホウを積載したトラックがJR新幹線橋梁を通過した際に、バックホウのアームが、橋梁2本と前後（南北）に設置されている高さ制限の門柱に接触した。



事故車走行方向

【事故の原因】

- ①運搬路の高さ制限及びトラックに積載した状態の高さを確認しなかった。
- ②これまで問題の無かった積み方と異なる積み方をし、積載したバックホウの上端高がこれまでより高くなった。

これまでの積み方
(接触事故なし)
排土板を前方に



今回の積み方
排土板を後方に



【事故の対策】

- ①高さ制限のある箇所や施設管理者等の緊急連絡先を記載したマップを作成し、関係者で共有する。会社内にも掲示する。
- ②現場代理人は、マップを携行し、運搬前に運搬路の高さ制限を確認する。
- ③高さ制限がある場合には、運搬者はバックホウを積載した状態で最も高い位置を計測し、運搬路の制限高さ以下であることを確認する。
- ④運搬者は計測した結果を現場代理人に報告する。現場代理人は報告を確認し、運搬開始を指示する。



問合せ先
袋井土木事務所 企画検査課
TEL : 0538-42-3216
Mail : fukudo-
kikakukensa@pref.shizuoka.lg.jp

袋井土木事務所





工事事務所対策通信

～漏水事故が発生しました～

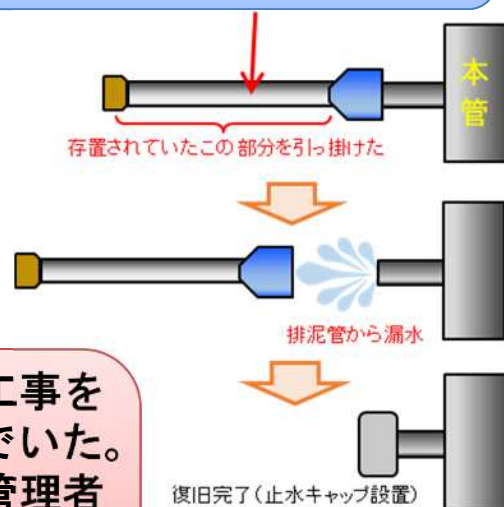
Vol. 55

令和7年10月発行

袋井土木発注工事 事故発生件数 令和7年度	事故項目	工事関係者負傷者	第三者(物損)	第三者(負傷)	工事事務所合計	令和7年10月現在
	件数	0件	2件	0件	2件	

【事故概要】

路床入替えのため掘削したところ、上水道本管から分岐した排泥管の止水キャップに繋がるホース部分を引っ掛け、漏水が発生し周辺企業18社が断水。



【事故の原因】

- ①水道管管理者が支障となる排泥弁の撤去工事を行った際、ホースも撤去されたと思い込んでいた。
- ②排泥弁撤去工事時に立会せず、完了後も管理者に撤去状況を確認しなかった。
- ③作業員への掘削範囲の周知が不足しており、計画より広範囲に掘削した。

【事故の対策】

- ①排泥管等の埋設物撤去にあたっては、埋設物管理者と連絡を取り、撤去作業時に立会うことで状況を確認する。
- ②埋設物撤去工事後は、埋設物管理者から資料を取り寄せ、撤去状況を確認する。また、埋設物が残置される場合、埋設シートの設置を依頼する。
- ③掘削範囲について、現地にマーキングを行ったうえで作業員に周知する。

埋設物撤去を管理者が実施していても、撤去状況や資料等を確認すること。
作業範囲について作業員に周知すること。



問合せ先
袋井土木事務所 企画検査課
TEL : 0538-42-3216
Mail : fukudo-
kikakukensa@pref.shizuoka.lg.jp

袋井土木事務所





工事事務所対策通信

Vol. 54

～橋梁の親柱を破損する事故が発生しました～

令和7年7月発行

袋井土木発注工事 事故発生件数 令和7年度	事故項目	工事関係者負傷者	第三者(物損)	第三者(負傷)	工事事務所合計	令和7年7月現在
	件数	0件	1件	0件	1件	

【事故概要】

走行中に運転手が飲み物を取ろうとしてハンドル操作を誤り、ダンプトラック助手席側のステップと橋梁親柱の角が接触した。

破損箇所



一部欠損した橋梁の親柱

【事故の原因】

- ①走行中に、物のある場所と反対側の手で物を取り、姿勢が崩れハンドル操作を誤った。
- ②危険箇所の認識不足により、運転手への注意喚起が足りなかった。



接触した助手席側ステップ



事故車内で事故当時を再現

【事故の対策】

- ①安全教育を実施（走行中は運転操作のみに集中し、水分補給は信号待ちなどの停車時に行う。）
- ②（ア）ハザードマップに事故箇所を追加。
- ②（イ）親柱の視認性を高めるため清掃を実施。安全巡視項目に加え定期的に視認性を確認し、汚れて視認性が低下した場合は清掃。

今回のような事故が公道であれば重大事故につながることを認識し、安全運転、交通ルールの順守及びハザードマップを改めて確認すること。



問合せ先
袋井土木事務所 企画検査課
TEL : 0538-42-3216
Mail : fukudo-
kikakukensa@pref.shizuoka.lg.jp

袋井土木事務所

